

## 新型コロナウイルス 不活化試験結果の概要

\*\*\* 不活化とは、ウイルスが死滅することです。\*\*\*

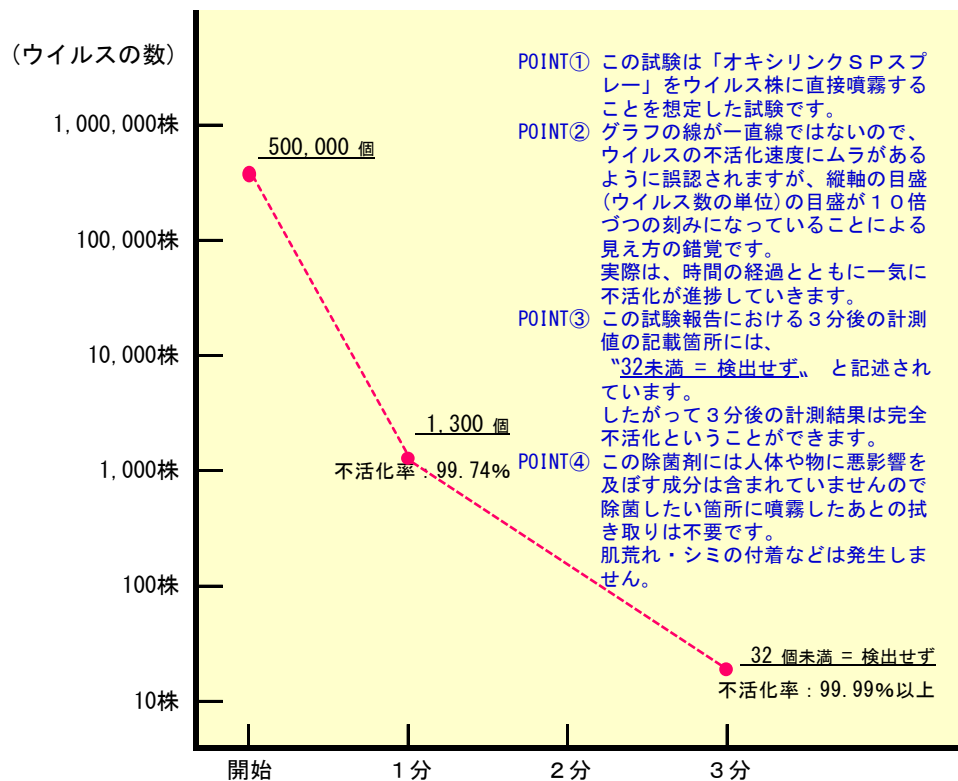
- [試験機関] (株)食環境衛生研究所
- [試験資材] オキシリンク-S P (500倍希釈) ≡ オキシリンクSPスプレー
- [試験対象] 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)：500,000株 (株 = 個数)
- [試験内容] 試験資材が試験対象に及ぼす不活化効果の検証 (試験① & 試験②)
- 試験①：ウイルスに直接噴霧することを想定した不活化効果試験。  
 試験②：超音波式加湿器に5%添加して空間に拡散させることで、空気中に浮遊しているウイルスがどれほど不活化するかを確認する試験。
- [試験期間] 開始：2021.06.16、終了：2021.07.16 (試験機関による報告書作成日)
- \*\*\* 菌やウイルスの死滅表現：菌 → “死滅”、ウイルス → “不活化” \*\*\*

### [考察：試験②で立証されたこと]

- 菌やウイルスなどによる感染のルートは、[接触感染]・[飛沫感染]・[空気(エアロゾル)感染]の3つです。下の試験②の“空間を除菌する”という防疫方法は、安全性が確立されているオキシリンクだから可能であり、空間に浮遊するその他の菌やウイルスでも同様の結果をもたらすことは容易に推察されます。
- なお、外気よりも菌やウイルスが少ない状態を維持しますので、換気をする必要はありません。メディアなどで言われている換気の奨励は、“汚染された室内空気 < 外気”という衛生概念に立っていますがこの試験により “外気 < 空間除菌された室内空気” は明らかです。

### 【試験①】 直接噴霧した場合の不活化効果試験

開始後3分での計測値：検出ウイルス数 < 32未満(検出限界値)  
 \*\*\* 計測：開始後1分・開始後3分 \*\*\*



### 【試験②】 空気中に浮遊しているウイルスに対する不活化効果試験

開始後10分での計測値：検出ウイルス数 < 32未満(検出限界値)  
 \*\*\* 計測：開始後10分 \*\*\*

